

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

Jc789 U.S. PTO
09/655226
09/06/00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

1999年 9月29日

出 願 番 号
Application Number:

平成11年特許願第275715号

出 願 人
Applicant(s):

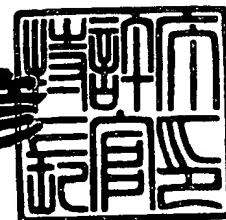
ソニー株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年 6月23日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



出証番号 出証特2000-3047587

【書類名】 特許願

【整理番号】 9900580404

【提出日】 平成11年 9月29日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04Q 05/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
 内

 【氏名】 坂詰 由佳

【特許出願人】

 【識別番号】 000002185

 【氏名又は名称】 ソニー株式会社

 【代表者】 出井 伸之

 【連絡先】 知的財産部 0 3 - 5 4 4 8 - 2 1 3 7

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 005094

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書
【発明の名称】 通信システム及び通信方法
【特許請求の範囲】

【請求項 1】 公衆回線(Public Switched Network)を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信システムであって、

前記ネットワーク内に、前記発行された共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、

前記管理元の通信端末から、前記発行された共通の電話番号に対応して、前記複数の通信端末のうちの所定の通信端末の識別名を前記電話番号管理センターに送出することにより、前記所定の通信端末を、前記共通の電話番号に対応付けて登録する手段と、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、または、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残すと共に前記登録された全ての通信端末宛に当該メッセージ到来の通知をする手段と、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残す手段と、

前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取る手段と、

を備えたことを特徴とする通信システム。

【請求項 2】 前記通信装置の識別名は、当該通信装置に割り当てられた電話番号または E-mail アドレスであることを特徴とする請求項 1 記載の通信システム。

【請求項 3】 前記メッセージまたは前記伝言の情報形態には、音声情報、文字情報、画像情報が含まれていることを特徴とする請求項 1 記載の通信システム。

【請求項4】 公衆回線を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信システムであって、

前記ネットワーク内に、前記発行された共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、

前記電話番号管理センターは、前記複数の通信端末の任意の一つからの前記発行された共通の電話番号によるアクセスを受けた後、前記管理元の通信端末の確認を得た上で当該通信端末を前記共通の電話番号に対応付けて登録する手段と、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、または、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残す手段と、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残す手段と、

前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取る手段と、

を備えたことを特徴とする通信システム。

【請求項5】 前記通信装置の識別名は、当該通信装置に割り当てられた電話番号またはE-mailアドレスであることを特徴とする請求項4記載の通信システム。

【請求項6】 前記メッセージまたは前記伝言の情報形態には、音声情報、文字情報、画像情報が含まれていることを特徴とする請求項4記載の通信システム。

【請求項7】 公衆回線を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信方法であって、

前記ネットワーク内に、前記発行された共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、

前記管理元の通信端末から、前記発行された共通の電話番号に対応して、前記

複数の通信端末のうちの所定の通信端末の識別名を前記電話番号管理センターに送出することにより、前記所定の通信端末を、前記共通の電話番号に対応付けて登録するステップと、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、または、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残すと共に前記登録された全ての通信端末宛に当該メッセージ到来の通知をするステップと、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残すステップと、

前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取るステップと、

を備えたことを特徴とする通信方法。

【請求項 8】 前記通信装置の識別名は、当該通信装置に割り当てられた電話番号または E-mail アドレスであることを特徴とする請求項 7 記載の通信方法。

【請求項 9】 前記メッセージまたは前記伝言の情報形態には、音声情報、文字情報、画像情報が含まれていることを特徴とする請求項 7 記載の通信方法。

【請求項 10】 公衆回線を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信方法であって、

前記ネットワーク内に、前記発行された共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、

前記電話番号管理センターは、前記複数の通信端末の任意の一つからの前記発行された共通の電話番号によるアクセスを受けた後、前記管理元の通信端末の確認を得た上で当該通信端末を前記共通の電話番号に対応付けて登録するステップと、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、また

は、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残すステップと、

前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残すステップと、

前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取るステップと、

を備えたことを特徴とする通信方法。

【請求項 1 1】 前記通信装置の識別名は、当該通信装置に割り当てられた電話番号または E - m a i l アドレスであることを特徴とする請求項 1 0 記載の通信方法。

【請求項 1 2】 前記メッセージまたは前記伝言の情報形態には、音声情報、文字情報、画像情報が含まれていることを特徴とする請求項 1 0 記載の通信方法。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、通信システム及び通信方法に関し、特に、ネットワーク内に登録された特定の仲間内の通信端末だけで共通の電話番号を確保して、任意の時点でメッセージを送受信できる通信システム及び通信方法に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、電話番号は、電話機などの通信端末（または回線）に対して 1 つだけが割り当てられていた。そのため、複数の人と通信したい場合は、通信先の対象者全員の通信端末の電話番号を知り、同じ通信内容であっても、ひとり一人に対して個別の通信を実施していた。

【0 0 0 3】

なお、この分野に関連した先願技術として、電話会議を目的とした音声多重方式に関する特許が多数出願されている。

また、N T T のマジックボックス・サービスをはじめ、留守番電話の機能を代

行する技術も公知である。

【0004】

さらには、プロバイダーが中継するインターネットの技術も公知である。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、従来は、複数の人との通信のために、対象者全員の通信端末の電話番号を知っている必要があるので、対象者の電話番号の変更に対応した管理が大変に厄介であった。

【0006】

また、ひとり一人に対して通信をしなければならないので、労力と消費時間が膨大になるという問題点があった。

さらに、ネットワークの加入者が、一人で複数台の通信端末を所有し、管理している場合、該加入者は、上記の通信端末に対応した分の電話番号を持つことになり、その管理が大変になるという問題があった。

【0007】

なお、上記の音声会議の技術では、メンバーが同時にコミュニケーションに参加する必要があり、他メンバー宛のメッセージを好みの時点で送出し、かつ自己宛のメッセージを好みの時点で取り出すことができない。

【0008】

また、NTTのマジックボックス・サービスでは、単に自局の留守番電話の機能が外部に置かれただけであり、通信端末（電話機）と電話番号が1対1対応となっていることの管理上の煩雑さが解決された訳ではない。

【0009】

さらに、インターネットの技術では、通信端末（電話機）以外にパソコンの設備とプロバイダーとの契約が必要になり、掲示板機能についても、必ずしも仲間内だけの機密性が保証されない。

【0010】

本発明は、以上のような従来の通信システムにおける問題点に鑑みてなされたものであり、ネットワーク内に登録された特定の仲間内の通信端末だけで共通の

電話番号を確保して、任意の時点でメッセージを送受信することができる通信システムを提供することを目的とする。

【0 0 1 1】

また、本発明の他の目的は、ネットワーク内に登録された特定の仲間内の通信端末だけで共通の電話番号を確保して、任意の時点でメッセージを送受信することができる通信方法を提供することを目的とする。

【0 0 1 2】

【課題を解決するための手段】

本発明では、上記課題を解決するために、公衆回線を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信システムであって、前記ネットワーク内に、前記発行された共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、前記管理元の通信端末から、前記発行された共通の電話番号に対応して、前記複数の通信端末のうちの所定の通信端末の識別名を前記電話番号管理センターに送出することにより、前記所定の通信端末を、前記共通の電話番号に対応付けて登録する手段と、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、または、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残すと共に前記登録された全ての通信端末宛に当該メッセージ到来の通知をする手段と、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残す手段と、前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取る手段とを備えたことを特徴とする通信システムが提供される。

【0 0 1 3】

また、公衆回線を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信システムであって、前記ネットワーク内に、前記発行さ

れた共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、前記電話番号管理センターは、前記複数の通信端末の任意の一つからの前記発行された共通の電話番号によるアクセスを受けた後、前記管理元の通信端末の確認を得た上で当該通信端末を前記共通の電話番号に対応付けて登録する手段と、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、または、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残す手段と、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残す手段と、前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取る手段とを備えたことを特徴とする通信システムが提供される。

【0014】

さらに、公衆回線を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信方法であって、前記ネットワーク内に、前記発行された共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、前記管理元の通信端末から、前記発行された共通の電話番号に対応して、前記複数の通信端末のうちの所定の通信端末の識別名を前記電話番号管理センターに送出することにより、前記所定の通信端末を、前記共通の電話番号に対応付けて登録するステップと、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、または、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残すと共に前記登録された全ての通信端末宛に当該メッセージ到来の通知をするステップと、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残すステップと、前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取るステップとを備えたことを特徴とする通信方法が提供される。

【0015】

また、公衆回線を範疇に含むネットワークに接続された複数の通信端末が、一つの管理元となる通信端末が発行する共通の電話番号宛の通信データを媒介にして、互いに通信する通信方法であって、前記ネットワーク内に、前記発行された共通の電話番号によりアクセスされる電話番号管理センターと、メッセージセンターと、伝言ボードとを設置し、前記電話番号管理センターは、前記複数の通信端末の任意の一つからの前記発行された共通の電話番号によるアクセスを受けた後、前記管理元の通信端末の確認を得た上で当該通信端末を前記共通の電話番号に対応付けて登録するステップと、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出したメッセージを、前記登録された全ての通信端末に送出するか、または、前記メッセージを前記メッセージセンター内に残すステップと、前記登録された通信端末の任意の一つから、前記共通の電話番号宛にアクセスして送出した伝言を、前記伝言ボード上に残すステップと、前記メッセージセンター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、前記登録された通信端末の任意の一つから、随時に読み取るステップとを備えたことを特徴とする通信方法が提供される。

【0016】

すなわち、本発明では、公衆回線を範疇に含むネットワーク内で、管理元の通信端末が発行する共通の電話番号によって結ばれたメンバー間で、相互に通信データを伝達する手段を提供する。そのために、上記ネットワーク内には上記管理元の通信端末が発行する共通の電話番号に対応して登録されたメンバーの管理を実施する電話番号管理センターを設置すると共に、上記共通の電話番号でアクセスされて、上記通信データを蓄積することのできるメッセージセンター及び伝言ボードを設置する。

【0017】

メンバーの形成方法には、上記共通の電話番号を発行する管理元の端末が該発行に際して所定のメンバーを指定する形態と、上記ネットワーク内の不特定多数のユーザーのうちの一人在上記共通の電話番号にアクセスしてきた際に、上記管理元の確認を得た上で、当該ユーザーをメンバーに加える形態との、2通りの形

態がある。

【0018】

上記の共通の電話番号にアクセスしたユーザーは、上記の電話番号管理センターによって、登録済のメンバーであるか否かがチェックされる。

上記のメッセージセンター、または伝言ボードに蓄積された通信データは、登録済の任意の通信端末から随時に取り出すことが可能である。

【0019】

上記通信データがメッセージの場合は、伝言の場合とは違って、上記メッセージそのもの、または該メッセージが上記のメッセージセンターへ到来したことの通知だけが、登録済の全ての通信端末に届けられる。

【0020】

上記通信データが伝言の場合は、当該伝言は、伝言ボード留まりとなるので、メンバーは随時にこれを閲覧する形態となる。

【0021】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

（第1の実施の形態）

図1は、本発明の第1の実施の形態に係る通信システムの構成とメンバー登録の仕組みを示すブロック図である。

【0022】

本実施の形態に係る通信システムは、公衆回線を範疇に含むネットワーク1と、ネットワーク1に接続された、コミュニティの契約者（管理元）の通信端末Aと、メンバー登録が予定されている通信端末B、C、Dと、つながり電話番号管理センター2を含む。

【0023】

以下、本実施の形態に係る通信システムにおけるメンバー登録処理の動作を説明する。

ステップS1では、通信端末Aが、今から構築するコミュニティの他のメンバー（ここでは通信端末B、C、D）を指定して、“つながりID”を発行する。

この“つながりID”とは、具体的には、つながり電話番号のことであり、通信端末Aは、上記コミュニティのメンバーと上記発行したつながり電話番号とを、つながり電話番号管理センター2に送付する。

【0024】

上記の“つながりID”、すなわちつながり電話番号が発行されると、ステップS2で、つながり電話番号管理センター2から上記指定された通信端末B、C、Dに対して、上記のつながり電話番号を受け入れるかどうかの確認が送出されるので、ステップS3にて、上記指定された通信端末が、上記の確認に同意すれば、上記同意した通信端末のユーザーは、上記特定コミュニティの正式のメンバーとなり、ステップS4にて、つながり電話番号管理センター2は、上記の同意をした通信端末の電話番号（またはID）を上記つながり電話番号に対応して登録すると共に、上記同意した通信端末に対して正式に上記のつながり電話番号を交付する。

【0025】

管理元の通信端末Aは、上記の動作を伴う“つながりID”交付方法により、限定されたコミュニティを生成することができる。

なお、図1に示すメンバー登録処理において、つながり電話番号の発行時に課金割合を設定することも可能である。

【0026】

また、メンバー間の課金割合を後から変更することも可能である。

さらに、つながり電話番号利用時の広告等のアナウンスまたは後述する伝言ボードへの掲載と引換えに、つながり電話番号の使用料を下記の表1で示すようにディスカウントするコースを設置することも可能である。

【0027】

【表1】

つながり I D	通信端末 A	通信端末 B	通信端末 C	通信端末 D
xxxx	2 0 %	2 0 %	2 0 %	2 0 %
xxxx	1 0 0 %	0 %	0 %	0 %
xxxx	6 0 %	1 0 %	1 0 %	2 0 %

【 0 0 2 8 】

図 2 は、本発明の第 1 の実施の形態に係る通信システムのメッセージ伝達の仕組みを示すブロック図である。

図 2 では、管理元の通信端末 A のユーザーから、上記特定コミュニティの全メンバーに対してメッセージを伝達する場合を示している。

【 0 0 2 9 】

以下、本実施の形態に係る通信システムのメッセージ伝達処理の動作を説明する。

まず、ステップ A 1 では、管理元の通信端末 A が発信者となって、上記交付したつながり電話番号 x x x x にアクセスを試みる。ネットワーク 1 に付属するメッセージセンター 3 では、通信端末 A が、つながり電話番号 x x x x の登録者であることを確認して、つながり電話番号 x x x x へのアクセスを許す。上記アクセスが許可された後で、通信端末 A のユーザーは、上記伝達すべきメッセージを他のメンバーに対して直接送出する形式にするか、それとも登録者が取りに行く形式にするかのいずれか一つを指定する。次に、通信端末 A が音声情報、文字情報、画像情報等で構成されるメッセージを送出する。

【 0 0 3 0 】

ステップ A 2 では、メッセージセンター 3 に上記送出されたメッセージがメッセージセンター 3 上のメモリに記録される。

ステップ A 3 では、通信端末 A が上記伝達すべきメッセージを、他のメンバーに対して直接送出する形式で指定していた場合には、メッセージセンター 3 は、つながり電話番号 x x x x の発信者（ここでは通信端末 A）以外の登録済の通信端末に対して、上記のメッセージを直接的に送出する。また、通信端末 A のユーザーが上記伝達すべきメッセージを、他のメンバーが取りに行く形式で指定して

いた場合には、メッセージセンター 3 は、つながり電話番号 x x x x の発信者（ここでは通信端末 A）以外の登録済の通信端末に対して、上記メッセージが到着した旨の通知だけを送出する。

【0031】

ステップ A 4 では、上記の通知を受けて、つながり電話番号 x x x x の登録者が、任意の時点で、メッセージセンターにアクセスすると、該登録者は通信端末 A からのメッセージを見たり聞いたりすることができる。

【0032】

図 2 に示したメッセージ送出方法によれば、特定の発信者からのメッセージを一度に複数のメンバーに送出することができる。また、メンバー同士では、登録されているメンバーの電話番号を知らなくても、上記メッセージ送出方法による連絡が可能となる。

【0033】

また、メッセージセンター 3 内の通信端末上のメモリには、つながり電話番号ナンバーしか残らないので個人の電話番号の漏洩を防ぐことができる。

図 3 は、本発明の第 1 の実施の形態に係る通信システムの伝言ボード機能の仕組みを示すブロック図である。

【0034】

図 3 では、管理元の通信端末 A のユーザーからの上記特定コミュニティの全メンバー宛の伝言を、メッセージセンター 3 内の、つながり電話番号 x x x x の伝言ボード 31 に記録する場合を示している。

【0035】

以下、本実施の形態に係る通信システムの伝言ボード機能を実現するための動作を説明する。

まず、ステップ B 1 では、つながり電話番号 x x x x に登録済の通信端末 B が、つながり電話番号 x x x x に伝言モードでアクセスする。ネットワーク 1 に付属するつながり電話番号管理センター 2 では、通信端末 B がつながり電話番号 x x x x の登録済通信端末であるので、通信端末 B に上記のアクセスを許可する。次に、通信端末 B は、伝言ボード 31 上に、音声情報、文字情報、画像情報等で

構成される伝言を残す。

【0036】

これにより、ステップB2では、つながり電話番号xxxx用の伝言ボードに上記の伝言が蓄積され、ステップB3では、メッセージセンター3は、つながり電話番号xxxxの発信者（ここでは通信端末B）以外の登録済の通信端末に対して、つながり電話番号xxxx用の伝言ボードに新しく伝言が掲示された旨を通知する。

【0037】

ステップB4では、上記の通知を受けて、つながり電話番号xxxxの登録済通信端末が、つながり電話番号xxxxの伝言ボードにアクセスすると、上記の新しい伝言を見ることができる。

【0038】

なお、上記のつながり電話番号xxxxの伝言ボードにアクセスする方法としては、例えば、つながり電話番号xxxxに接続された後で、伝言ボードから伝言を取り出すモードを指定するようにしてもよい。

【0039】

図3に示した方法によれば、全てのメンバーが、現在までのメンバー同士のやりとりを一度に見ることができる。これによりメンバー同士でお互いの電話番号を記憶して電話をし合う必要がなくなる。また、登録済端末のユーザー以外は、上記のつながり電話番号xxxxにアクセスすることができないため、伝言のセキュリティが保証される。

【0040】

また、図2に示す機能と同様に、各メンバーは、互いにメンバー固有の電話番号に依存することなく連絡を取ることが可能となる。

さらに、複数の通信端末を所有するユーザーに対しては、該ユーザーが所有する上記複数の通信端末の電話番号管理の煩雑さを削減する効果がある。

【0041】

なお、本実施の形態に係る通信システムのネットワーク1上における交換処理の動作については後述する。

(第 2 の実施の形態)

図 4 は、本発明の第 2 の実施の形態に係る通信システムの構成とメンバー登録の仕組みを示すブロック図である。

【 0 0 4 2 】

本実施の形態に係る通信システムのネットワーク側の構成は、第 1 の実施の形態に係る通信システムのネットワーク側の構成と同じである。

しかしながら、本実施の形態に係る通信システムでは、公衆回線を範疇に含むネットワーク 1 に接続された通信端末 A 以外の通信端末として、メンバー登録が必ずしも最初から予定されていない不特定多数の通信端末（ここでは通信端末 H，J，R）を含む。

【 0 0 4 3 】

図 4 では、通信端末 A 以外の通信端末として、通信端末 H，J，R だけを示しているが、本実施の形態では、つながり電話番号の発行によりメンバー登録を受ける候補の通信端末の台数は、一般には制限されない。

【 0 0 4 4 】

以下、本実施の形態に係る通信システムにおけるメンバー登録処理の動作を説明する。

まず、ステップ C 1 では、契約者（通信端末 A）は、登録者数無制限パックで契約し、つながり電話番号を発行する。より具体的には、契約者（通信端末 A）は、つながり電話番号だけを、つながり電話番号管理センターに送付する。

【 0 0 4 5 】

ステップ C 2 では、登録を希望するユーザー（未加入のユーザー）が、自局の通信端末を使用して、つながり電話番号 x x x x にアクセスする。

ステップ C 3 では、契約者（管理元）の通信端末 A が、上記のアクセスをしてきた通信端末を登録するか否かの確認を実施する。

【 0 0 4 6 】

ステップ C 4 では、通信端末 A が上記のアクセスをしてきた通信端末を登録することに同意すれば、ステップ C 5 にて、つながり電話番号管理センター 2 が、上記のアクセスを試みた通信端末に対してつながり電話番号を正式に発行する。

【 0 0 4 7 】

上記のメンバー登録方法によれば、メンバーを無制限に増やすことができるので、仲間内の一コミュニティに留まらず、一つの通信ワールドを生成することができる。

【 0 0 4 8 】

この方式の場合、課金方法は、一メンバーにつき幾らにするといった固定方式にすることも可能であり、それが好ましい課金形態となる。

図 5 は、本発明の第 2 の実施の形態に係る通信システムのメッセージ伝達の仕組みを示すブロック図である。

【 0 0 4 9 】

図 5 では、管理元の通信端末 A のユーザーから、上記特定コミュニティの全メンバーに対してメッセージを伝達する場合を示している。

以下、本実施の形態に係る通信システムのメッセージ伝達処理の動作を説明する。

【 0 0 5 0 】

まず、ステップ D 1 では、管理元の通信端末 A が発信者となって、上記交付したつながり電話番号 x x x x にアクセスを試みる。ネットワーク 1 に付属するメッセージセンター 3 では、通信端末 A が、つながり電話番号 x x x x の登録者であることを確認して、つながり電話番号 x x x x へのアクセスを許す。上記アクセスが許可された後で、通信端末 A のユーザーは、上記伝達すべきメッセージを他のメンバーに対して直接送出する形式にするか、それとも登録者が取りに行く形式にするかのいずれか一つを指定する。次に、通信端末 A が音声情報、文字情報、画像情報等で構成されるメッセージを送出する。

【 0 0 5 1 】

ステップ D 2 では、メッセージセンター 3 に上記送出されたメッセージがメッセージセンター 3 上のメモリに記録される。

ステップ D 3 では、通信端末 A が上記伝達すべきメッセージを、他のメンバーに対して直接送出する形式で指定していた場合には、メッセージセンター 3 は、つながり電話番号 x x x x の発信者（ここでは通信端末 A）以外の登録済の通信

端末に対して、上記のメッセージを直接的に送出する。また、通信端末 A のユーザーが上記伝達すべきメッセージを、他のメンバーが取りに行く形式で指定していた場合には、メッセージセンター 3 は、つながり電話番号 x x x x の発信者（ここでは通信端末 A）以外の登録済の通信端末に対して、上記メッセージが到着した旨の通知だけを送出する。

【0052】

ステップ D 4 では、上記の通知を受けて、つながり電話番号 x x x x の登録者が、任意の時点で、メッセージセンターにアクセスすると、該登録者は通信端末 A からのメッセージを見たり聞いたりすることができる。

【0053】

図 5 に示したメッセージ送出方法によれば、特定の発信者からのメッセージを一度に複数のメンバーに送出することができる。また、メンバー同士では、登録されているメンバーの電話番号を知らなくても、上記メッセージ送出方法による連絡が可能となる。

【0054】

また、メッセージセンター 3 内の通信端末上のメモリには、つながり電話番号ナンバーしか残らないので個人の電話番号の漏洩を防ぐことができる。

図 6 は、本発明の第 2 の実施の形態に係る通信システムの伝言ボード機能の仕組みを示すブロック図である。

【0055】

図 6 では、管理元の通信端末 A のユーザーからの上記特定コミュニティの全メンバー宛の伝言を、メッセージセンター 3 内の、つながり電話番号 x x x x の伝言ボード 31 に記録する場合を示している。

【0056】

以下、本実施の形態に係る通信システムの伝言ボード機能を実現するための動作を説明する。

まず、ステップ E 1 では、つながり電話番号 x x x x に登録済の通信端末 A が、つながり電話番号 x x x x に伝言モードでアクセスする。ネットワーク 1 に付属するつながり電話番号管理センター 2 では通信端末 A がつながり電話番号 x x

xxの登録済通信端末であるので、通信端末Aに上記のアクセスを許可する。次に、通信端末Aは、伝言ボード31上に、音声情報、文字情報、画像情報等で構成される伝言を残す。これにより、ステップE2にて、つながり電話番号xxxx用の伝言ボード31に上記の伝言が蓄積され、メッセージセンター3は、つながり電話番号xxxxの発信者（ここでは通信端末A）以外の登録済の通信端末に対して、つながり電話番号xxxx用の伝言ボードに新しく伝言が掲示された旨を通知する。

【0057】

ステップE3では、上記の通知を受けて、つながり電話番号xxxxの登録済通信端末が、つながり電話番号xxxxの伝言ボードにアクセスすると、上記の新しい伝言を見ることができる。

【0058】

なお、上記のつながり電話番号xxxxの伝言ボードにアクセスする方法としては、例えば、つながり電話番号xxxxに接続された後で、伝言ボードから伝言を取り出すモードを指定するようにしてもよい。

【0059】

図6に示した方法によれば、全てのメンバーが、現在までのメンバー同士のやりとりを一度に見ることができる。これによりメンバー同士でお互いの電話番号を記憶して電話をし合う必要がなくなる。また、登録済端末のユーザー以外は、上記のつながり電話番号xxxxにアクセスすることができないため、伝言のセキュリティが保証される。

【0060】

また、図5に示す機能と同様に、各メンバーは、互いにメンバー固有の電話番号に依存することなく連絡を取ることが可能となる。

また、契約者（通信端末Aのユーザー）側には新規登録者の電話番号が知られるが、その他のメンバーには電話番号は知らされないで、自局の電話番号は知られたくないが、コミュニケーションを取りたい場合に有効である。

【0061】

さらに、複数の通信端末を所有するユーザーに対しては、該ユーザーが所有す

る上記複数の通信端末の電話番号管理の煩雑さを削減する効果がある。

(第 1 と第 2 の実施の形態に係る共通事項)

図 7 は、本発明の第 1 と第 2 の実施の形態に係る通信システムのネットワーク 1 上における交換処理の動作を示すフローチャートである。

【0 0 6 2】

ネットワーク 1 上の通信端末からの、つながり電話番号 x x x x へのアクセスがあると、

ステップ F 1 では、つながり電話番号管理センター 2 が、上記アクセスしてきた通信端末が、つながり電話番号 x x x x に対応して登録されている通信端末か否かを判断し、つながり電話番号 x x x x に対応して登録されている通信端末であれば、上記の通信端末に対して、つながり電話番号 x x x x へのアクセスを可能にする。また、上記アクセスしてきた通信端末が、つながり電話番号 x x x x に対応して登録されている通信端末ではない場合には、制御の流れを下記のステップ S 2 に移す。

【0 0 6 3】

ステップ F 2 では、つながり電話番号管理センター 2 が、つながり電話番号 x x x x は登録可能な通信端末の台数を無制限とするつながり電話番号であるか否かを判断し、つながり電話番号 x x x x が、登録可能な通信端末の台数を無制限とするつながり電話番号であれば、契約者（コミュニティの管理元）の通信端末に確認の連絡をする。また、つながり電話番号 x x x x が、登録可能な通信端末の台数を無制限としないつながり電話番号であれば、上記の通信端末に対して、つながり電話番号 x x x x へのアクセスを不可にする。

【0 0 6 4】

なお、上記の動作説明は、一般の通信端末から、つながり電話番号 x x x x へのアクセスがあった場合を説明したが、メッセージセンター 3 や、つながり電話番号 x x x x の伝言ボード 3 1 から、つながり電話番号 x x x x へのアクセスがあった場合にも上記と同じ動作となる。

【0 0 6 5】

なお、上記の各実施の形態で示した、つながり電話番号管理センター 2 とメッ

セージセンター 3 とを併合することも可能である。

また、つながり電話番号 x x x x の伝言ボード 3 1 をメッセージセンター 3 に含めることも可能である。

【0066】

【発明の効果】

以上に説明したとおり、本発明では、ネットワーク内に、つながり電話番号の交付を受けたメンバーを登録し、該メンバーの管理を実施する電話番号管理センターと、メンバーの通信データを預かったり他のメンバーに送付したりするメッセージセンター、及びメンバーの伝言を掲示する伝言ボードを設置するようにしたので、コミュニティ内の複数の人との通信のために、必ずしもメンバー全員の通信端末の電話番号を知っている必要がなく、コミュニティに共通の電話番号であるつながり電話番号を使用することができる。

【0067】

また、つながり電話番号への 1 回のアクセスで、全てのメンバーにメッセージや伝言を知らせることができるので、労力と消費時間が大幅に節約される。

さらに、他メンバー宛のメッセージを好みの時点で送出し、かつ自己宛のメッセージを好みの時点で取り出すことができる。

【0068】

また、メンバーの電話番号等の個人情報が漏出することを防止することができる。

さらに、メンバー間の通信内容がメンバー以外に漏洩することを防止することができるので、通信内容のセキュリティが高まる。

【0069】

また、契約時及び契約後に、つながり電話番号に対する使用料の支払い負担割合を指定したり、変更したりすることが可能である。

さらに、インターネット使用の場合のように、新たな設備投資やプロバイダーとの契約を実施する必要がない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 の実施の形態に係る通信システムの構成とメンバー登録の仕組みを示すブロック図である。

【図 2】

本発明の第 1 の実施の形態に係る通信システムのメッセージ伝達の仕組みを示すブロック図である。

【図 3】

本発明の第 1 の実施の形態に係る通信システムの伝言ボード機能の仕組みを示すブロック図である。

【図 4】

本発明の第 2 の実施の形態に係る通信システムの構成とメンバー登録の仕組みを示すブロック図である。

【図 5】

本発明の第 2 の実施の形態に係る通信システムのメッセージ伝達の仕組みを示すブロック図である。

【図 6】

本発明の第 2 の実施の形態に係る通信システムの伝言ボード機能の仕組みを示すブロック図である。

【図 7】

本発明の第 1 と第 2 の実施の形態に係る通信システムのネットワーク上における交換処理の動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

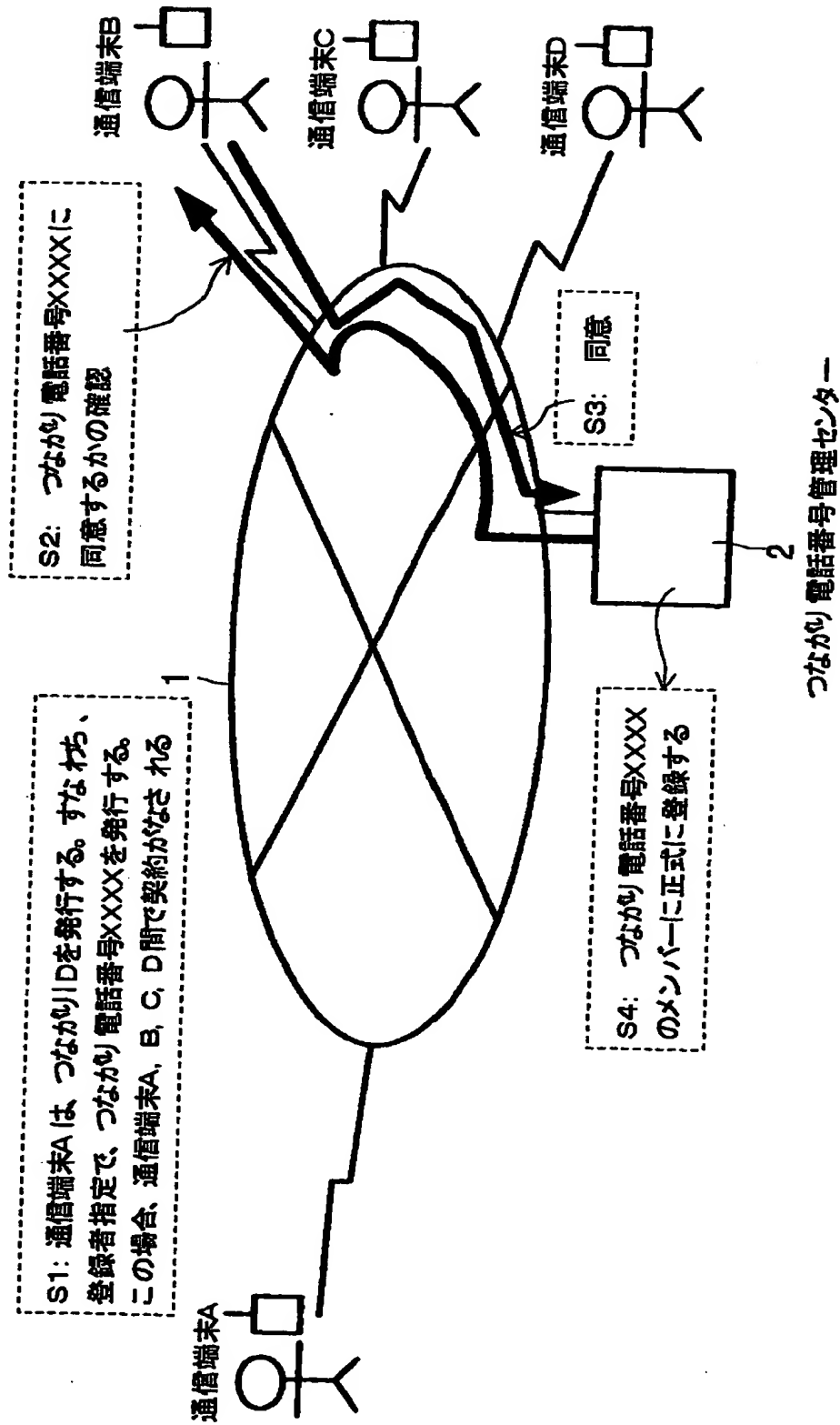
1 ……ネットワーク、2 ……つながり電話番号管理センター、3 ……メッセージセンター、3 1 ……つながり電話番号 x x x x の伝言ボード、A, B, C, D, H, J, R ……通信端末

特平 1 1 - 2 7 5 7 1 5

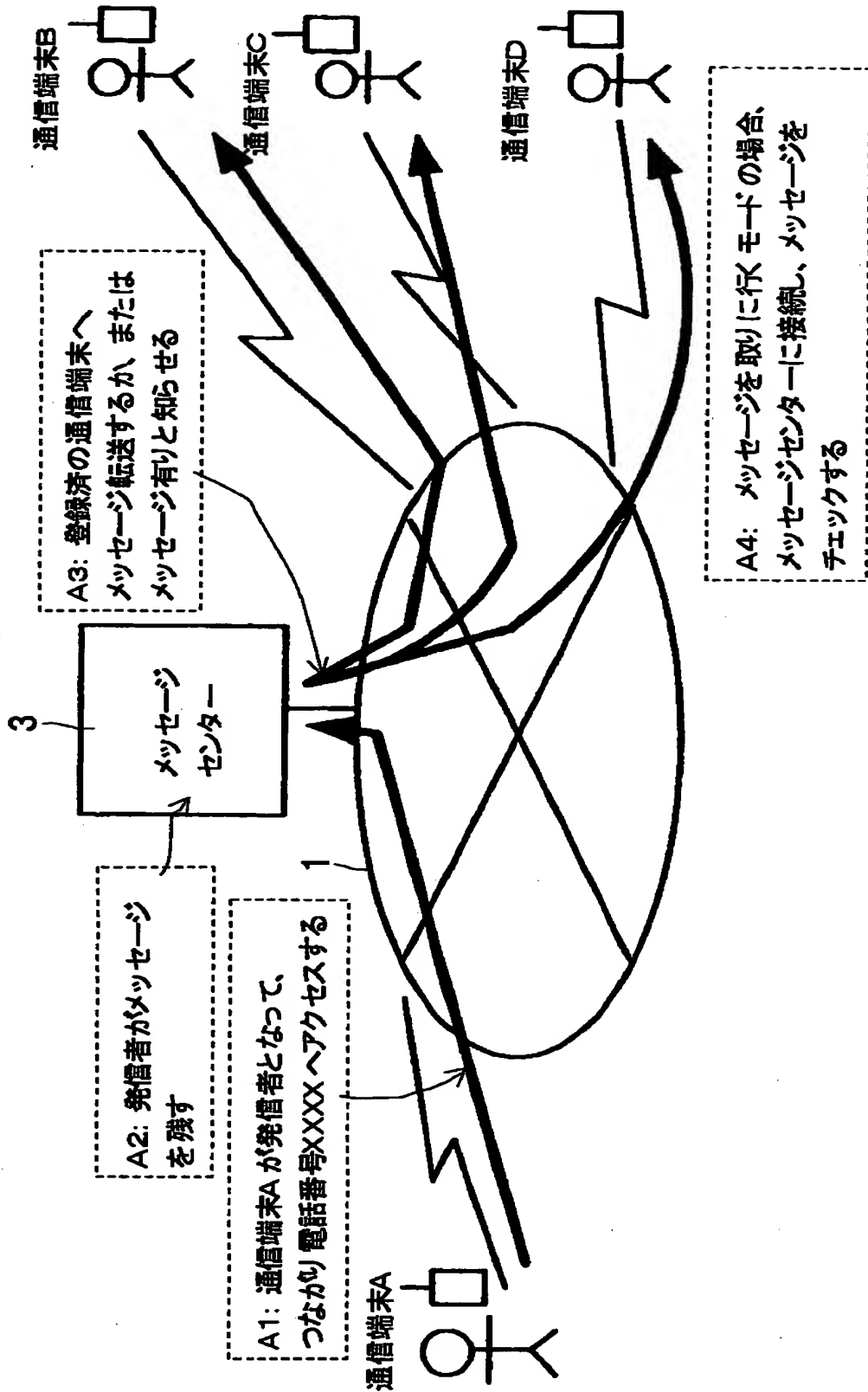
【書類名】

図面

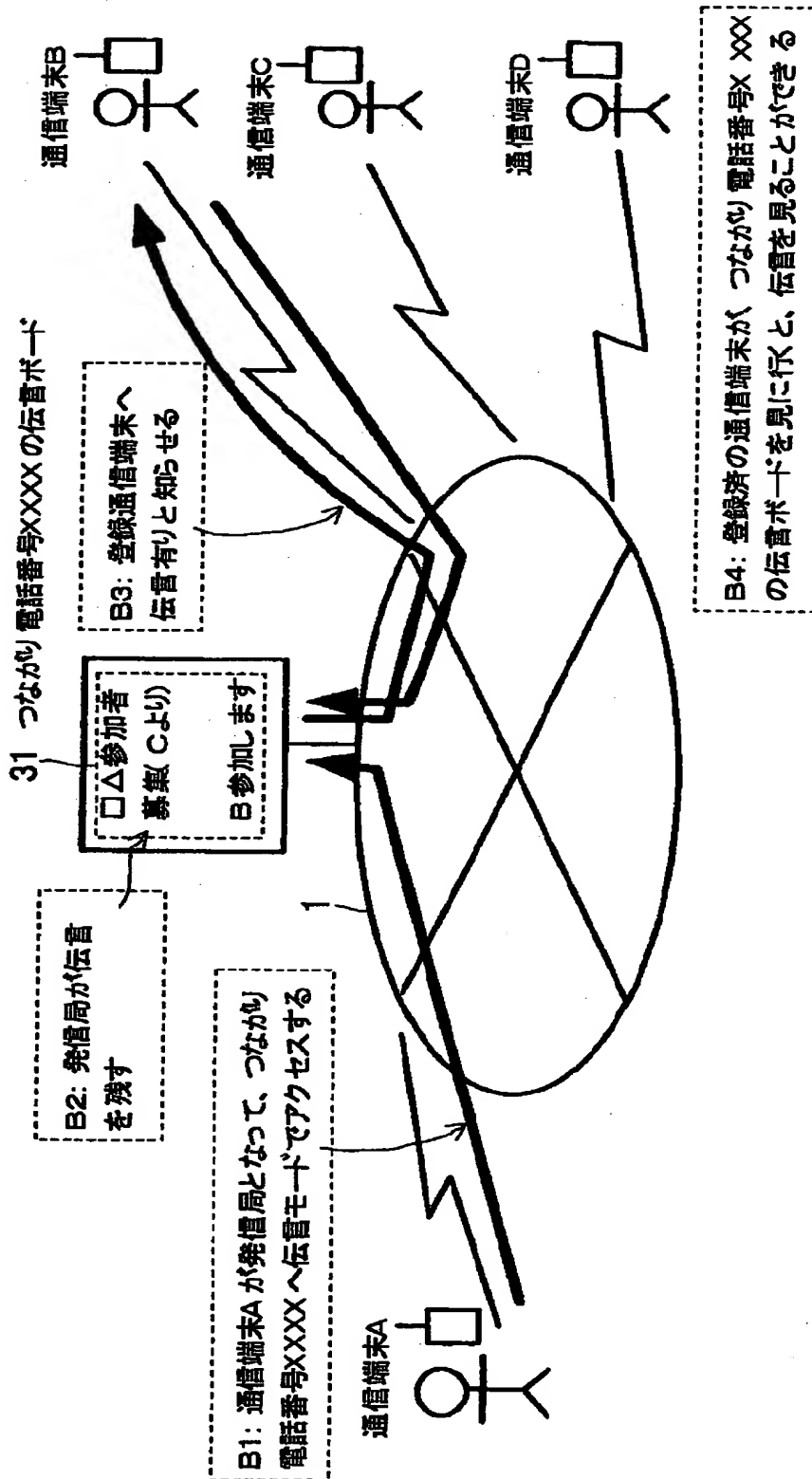
【図 1】



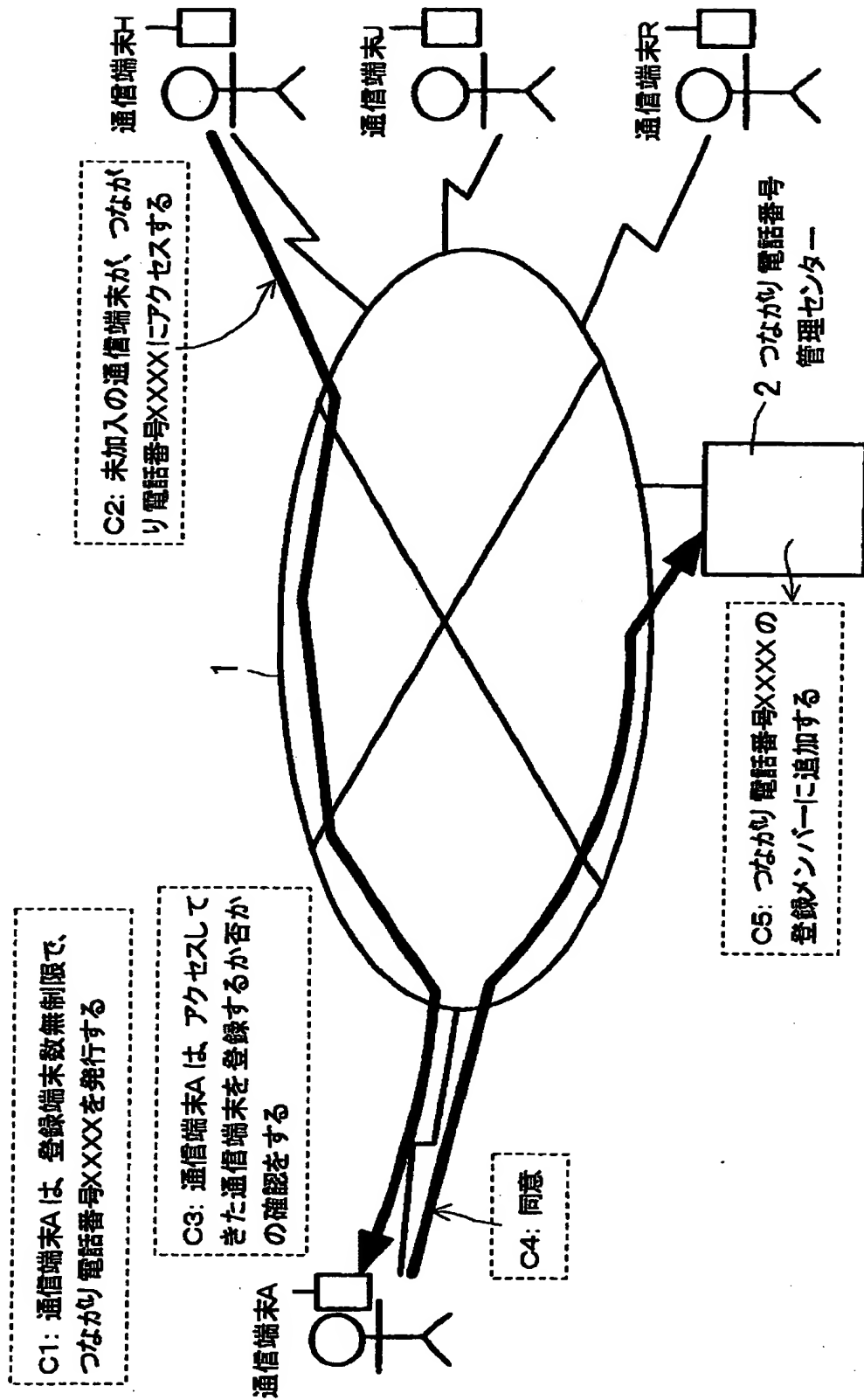
【図 2】



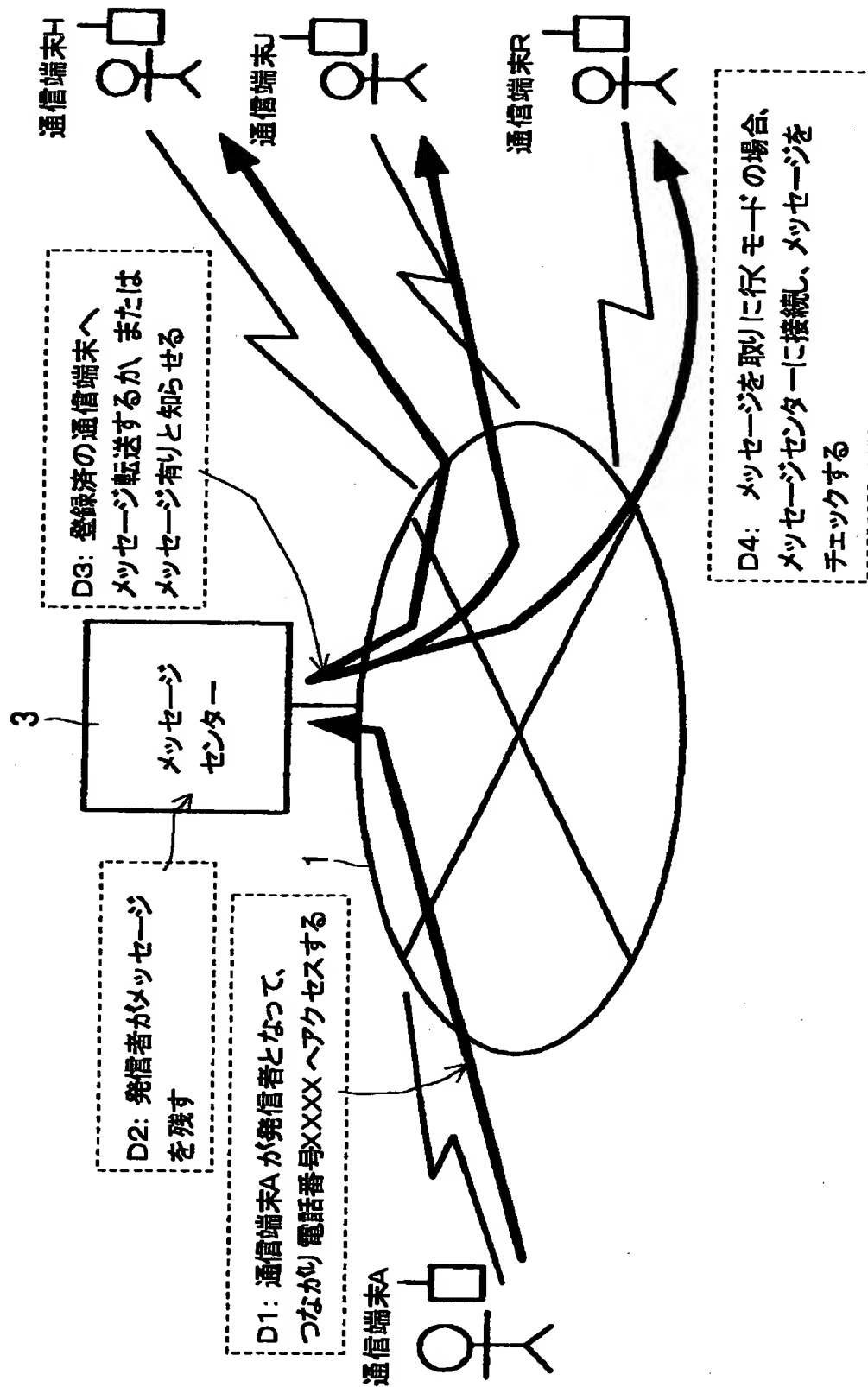
【図 3】



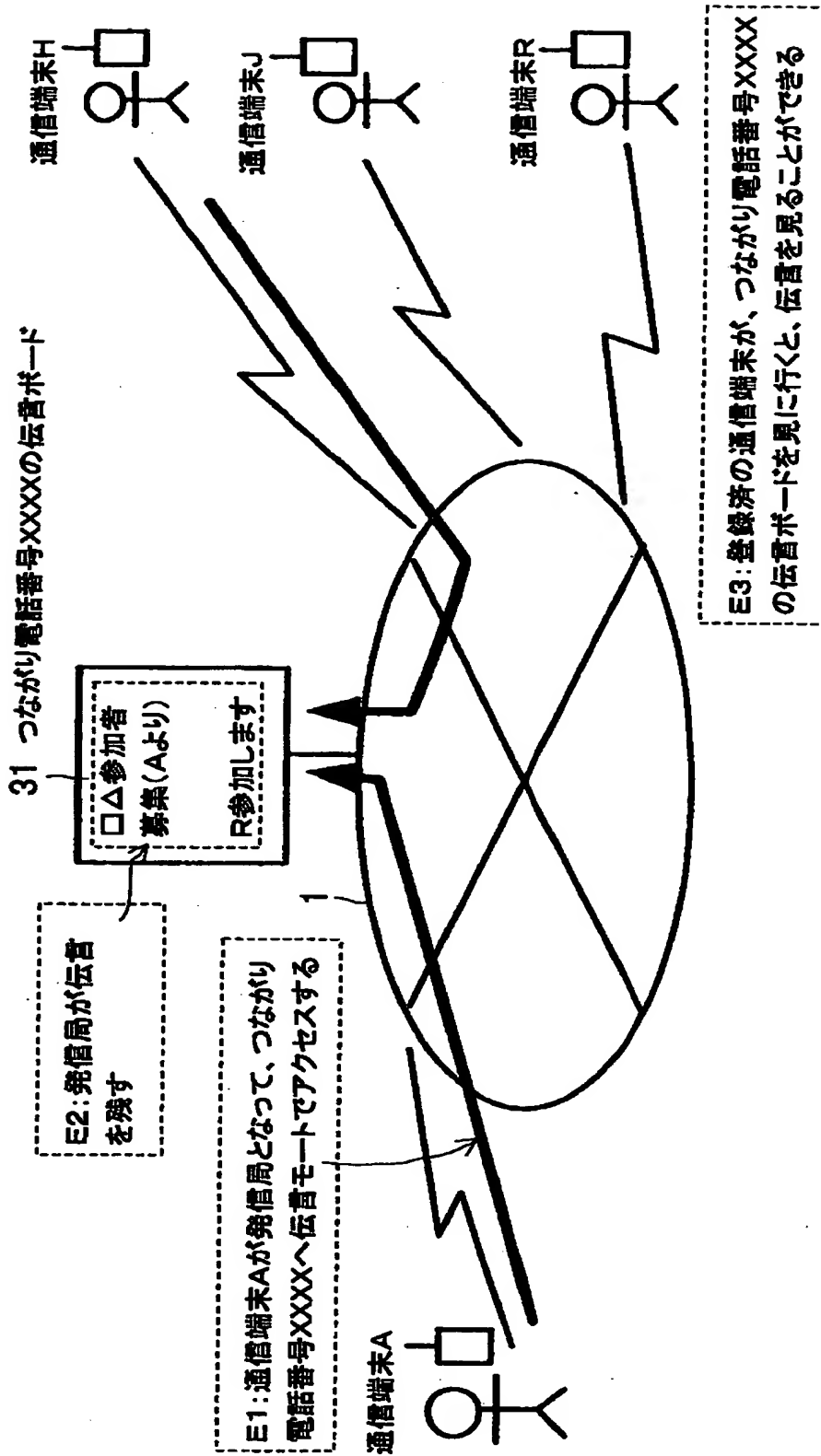
【図 4】



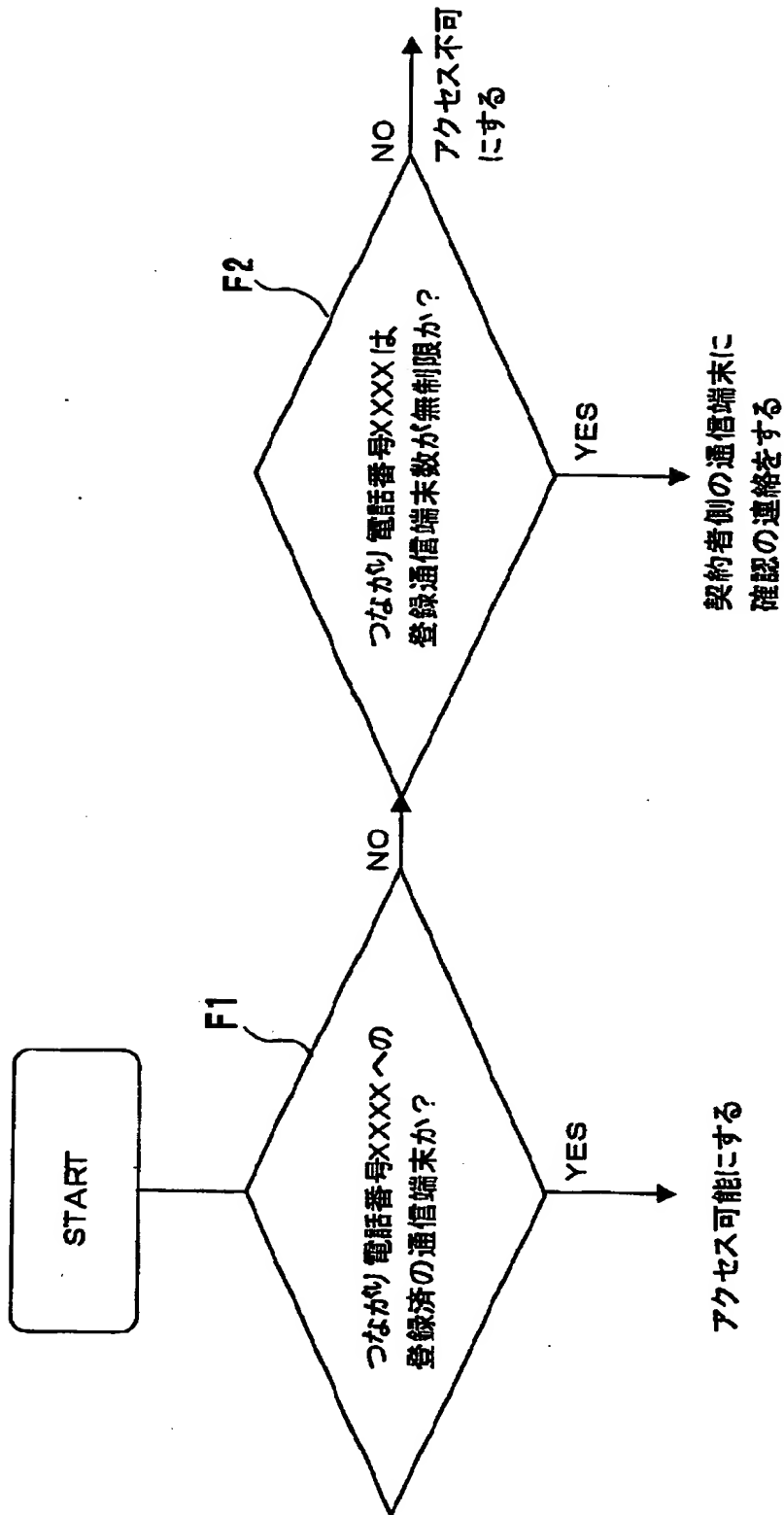
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ネットワーク内に登録された特定の仲間内の通信端末だけで共通の電話番号を確保して、任意の時点でメッセージを送受信できるようにする。

【解決手段】 ネットワーク 1 内の管理元の通信端末 A は、発行した共通の電話番号に対応して所定の通信端末 B, C, D の識別名を電話番号管理センター 2 に送出することにより、これらを、上記共通の電話番号に対応付けて登録する。上記通信端末の任意の一つが上記共通の電話番号宛に送出したメッセージは、登録された全ての通信端末に送出するか、または、センター内部に残すと共に登録済の全ての通信端末宛にその通知をする。また、登録済通信端末の任意の一つが共通の電話番号宛に送出した伝言を、前記伝言ボード上に残す。登録済通信端末の任意の一つは、センター内に残されたメッセージまたは前記伝言ボード上に残された伝言を、随時に読み取る。

【選択図】 図 1

職権訂正履歴 (職権訂正)

特許出願の番号	平成11年 特許願 第275715号
受付番号	59900947452
書類名	特許願
担当官	濱谷 よし子 1614
作成日	平成11年10月 5日

<訂正内容1>

訂正ドキュメント

明細書

訂正原因

職権による訂正

訂正メモ

【発明の詳細な説明】の欄を改行しました。

訂正前内容

請求項10記載の通信方
法。【発明の詳細な説明】

訂正後内容

請求項10記載の通信方
法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川6丁目7番35号
氏 名	ソニー株式会社